

登録コード	BSB92575	開講年度	2026				
授業題目	生命工学特別実験（22BS以降）					担当教員	入枝 泰樹
英文授業名	Advanced Experiments in Biotechnology					副担当	
単位数	4	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	実験	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2026BSカリ, 2025BSカリ, 2024BSカリ, 2023BSカリ						
	【専攻】深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力					修士の学位を取得するため、研究スキルの修得、論文作成、発表、最終試験にむけての課題探求能力やプレゼンテーションの能力を身に付けることを目標としています。 1. 自身の研究を理解し、計画を立てる。 2. 研究計画に従い、研究を実施する。 3. 研究成果を研究室内外に分かりやすく説明する。 4. 他人の研究発表を聴講して、質問する。 5. 修士論文を作成する。	
(2)授業の概要	修士論文を執筆するため、植物病理学に関する研究を実施します。 また、修士論文に関連した学術論文(英語)や植物病理学に関連する最近のトピックスを紹介します。発表は微生物植物相互作用学研究室の構成員全員参加によるセミナー形式で行います。また、質疑応答を通じてコミュニケーション能力、研究の解釈、考察能力を深めます。 発表者は、自身の研究や紹介する論文について、資料やパワーポイントにまとめて参加者に提示します。 より分かりやすい資料等を作成することを心がけてください。 また、研究成果を社会に発信するため、学会や研究会で発表します。						
(3)授業計画	修士論文の課題研究に取り組む。 前期および後期（平日）中の時間を有効活用しながら、以下を継続的に実施します。 1. 研究計画の立案 2. 実験計画の立案 3. 実験の実施 4. 結果のまとめ 5. 結果に対するディスカッション 6. 発表と質疑応答						
(4)成績評価の方法	研究内容や発表を総合的に判断します。具体的には、研究に取り組む姿勢や発表に用いる資料のまとめ方(レイアウトの仕方・わかりやすさ・必要な図表を選んでいるかなど)、発表の仕方や発表に関して行われる質疑応答も重要な成績評価の材料となります。						
(5)成績評価の基準	出席、発表内容、聴講姿勢を以下の項目で評価します。 i) 修士論文の研究課題を理解し、指導教員と議論できる。 ii) 修士論文の課題解決に向けて自主的に実験を行い、他者のアドバイスを応用できる。 iii) 修士論文の実験結果を正しく解釈し、考察できる。 iv) 修士論文の研究内容を関連する学会・研究会で発表し、質疑応答ができる。 v) 修士論文の研究成果を学術誌に論文として発表できる。 秀 S 5つ全ての項目に当てはまる場合（卓越している） 優 A 4つの項目に当てはまる場合（かなり上にある） 良 B 3つの項目に当てはまる場合（やや上にある） 可 C 2つの項目に当てはまる場合（合格水準にある） 不可 D 1つ以下の項目しか当てはまらない場合						
(6)事前事後学習の内容	研究およびプレゼンテーション資料の準備には時間がかかります。計画的に取り組んでください。						
(7)履修上の注意	なし						
(8)質問,相談への対応	研究室にて随時対応します。						
(9)その他	研究室にて随時対応します。						
【教科書】	特に指定しない。						
【参考書】	特に指定しない。						